

(1) NO. 32 平成17年2・3月号 こもれび



総合建設
株式会社 日向建設 ひゅうが せつ
〒247-0061 神奈川県鎌倉市 1-10-4
http://hyuuga.co.jp どこまでが夢ですか
TEL 0467(47)5454 FAX 0467(44)0303

今月の
特集!!

『甦る家』(第二回)
昔ながらの趣のある家、大規模改装工事
～鎌倉市極楽寺～



昔ながらの矩折りの廻り廊下

前回より始まった特集、「甦る家」の第二回目です。取材の日は寒い日でしたが、前日までの暖かな陽気のせい、近くの極楽寺では梅の花が咲いていました。

改装工事現場に行ってみると、きれいに荷物が片付けられていました。住人の気配がなくなったこの家はこれからいろいろな職人さんの手によって再生されていくのを、ゆっくりと待っているかのようです。このような古い家には独特の趣があって、その家が単なる家ではなく、一つの意思をもった生き物のように感じてくるから不思議です。昔ながらの家を、丁寧に丁寧に直していく工事ができることに、建築家としての喜びを感じます。そして、なんだか家自体も喜んで見守ってくれているような気がしてくるのです。

中に入ると、床にはすでに耐震コンクリートが打ってありました。このコンクリートが地震などの揺れから守る基礎となり、古い木造建築の柱をしっかりと固定します。また、家の中の温度調節を行う大事な役割も果たしてくれます。

大工さんの手によってなおされた柱は、さらに「ゆがみ」をなおしている所でした。これは、歪んだ部分の柱に別の柱を打ち付けて、反対側から押し上げるような形にすることで、歪みを治してゆく工程だそうです。カベとなる部分の「筋違」も入っており、しっかりと「耐震補強」が行われている様子がよく分かりました。



こうした家の改装工事では、『職人さんの腕のみせどころ』がたくさんあります。量販の建売住宅では決してみられないような、木造建築に欠かせない「職人技」が光る部分を随所に見ることができます。大工さんにとっても、神経を使う気が抜けない工事ではありますが、家が甦ったときは、満足感・充実感に満たされることでしょう。



上を見あげると、美しい「木小舞天井」も新しい板へと張り替えられ、その美しさがさらに際立っていました。

「家」は、古い趣だけでは良い家とはいえません。同時に、住みやすさや快適さ、耐震性なども必要です。そういう『終の棲家』へと、甦っていく工事内容を次回もお伝えしていきます。お楽しみに!!



「これは何でしょう?…答えは、完成までのお楽しみ!!」

「これは、工事中に見つかったものです。さて何でしょう?」「何だかわかりませんが…、とても綺麗な文様ですね。」

「実はこれは、昔の掘りゴタツのカバーなのです。本当ならば、もう不要ですから、捨てられてしまうものなのですが、見てのとおり、とっても綺麗なものなので取っておきました。これを家のどこかに使って、別のものに再生させてみようと思っています。何になるのかは、まだ秘密です。ビックリするような素敵なお宝にしますよ! 完成までのお楽しみです…!!」



(2) こもれび

外壁塗装工事にご用心?!



下地のサビ止めが見えています

日向建設でおすすめしている塗料は、「セラタイトシリーズ」という超低汚染型塗料です。これは、耐久性に定評のあるふっ素樹脂を使用。最も優れた耐久性を発揮し、建物を長期に亘って保護することができます。汚れが付着しても塗膜表面が親水性であるため、雨により表面の汚れが徐々に除去されます。通常の塗料に比べて値段も高くなりますが、塗り替えのサイクルをトータル的に考えると経済的です。ぜひ、外壁塗装工事のときに使ってほしい塗料です。何より、お客様に納得して頂く工事を心がけています。

お客様から、外壁の塗り替えについて相談を受けました。「外壁と屋根の塗り替え工事をして、まだ三年しか経っていないのに、塗装がはげてきてしまいました。どうしてでしょう?」というお話です。簡単にはがれてきた事にショックを受けているようでした。

さっそく、お宅へ伺いました。なるほど、はげてしまった部分がやや目立っています。はしごに登り屋根の様子も見て驚きました。「屋根の上の方、塗ってない所がありますよ!」心無い業者が手抜き工事をしたのでしょうか。見えない部分の屋根は塗らずにそのままになっていました。お客様もこれには大変驚き、落胆されていました。その塗装業者には二度、塗り替え工事を依頼したそうです。工事費も随分かかったことでしょう。見えない部分や中に隠れてしまう所の手抜き工事は、仕上がってしまうとわかりません。大切な財産である『家』を守るためにも、業者選びは慎重にしましょう。不安なときは、すぐにご相談ください。

外壁塗り替えのおおよその目安は、約10年位です。塗り替えの際にはまず下地を綺麗に整え、その上で選び抜いた塗料を丁寧に塗っていきます。塗る前の下地が汚れたままでは、塗り替えてもすぐにはがれてしまうことになります。また塗料の種類によっては、数年で塗り替えが必要になってしまうような、汚れが付きやすい塗料もあり

黙仙寺の『ハクビシン』を退治!

先日大船観音の近くにあるお寺『黙仙寺』から、「天井裏にハクビシンが出てフン被害に困っています。何とかならないでしょうか?」と連絡を受けました。

どうやらハクビシンは、建物のちょっとした隙間を見つけて侵入し、天井裏に住みついていたようでした。このハクビシンを傷つけることなく、何とか天井裏から出させる方法はないか、いろいろ考えました。その結果、天井裏に「紫外線を発生する殺菌灯」を取り付ける事にしました。この殺菌灯は、長時間見ていると紫外線によって雪目になるため、動物が嫌がって近づくなくなる効果があります。ハクビシンや他の動物が侵入すると、その体温を感知して自動的に明りがつき、いなくなると自動消灯します。



▲ハクビシン



▲アライグマ



屋根裏のフンの山

ハクビシンは、漢字では「白鼻芯」と書くとおどろき、鼻から頭にかけた白い毛が特徴です。一見可愛い姿をしていますが、外来種で、ときどき民家に入り込んで、食物を荒らすなどのいたづらを行います。

このような動物被害は、お寺のような木造建築の建物に多いようです。鎌倉ではハクビシンやアライグマが侵入する被害をよく耳にしますが、動物が出る家というのは、「昔ながらの家」の証しとも言えますね。

この殺菌灯は、ネズミやタヌキなどにも効果があります。動物が天井裏に入っているという方がいましたら、一度ご相談ください。

ふじや
大船1-19-3(昌和ビル2F)
0467-44-1958



マスター&ママさんが笑顔で迎えてくれるお店です。人気メニューのひとつに「特選うどん」があって、味はなかなかの美味ですよ。その他、小皿料理もたくさんあります。また「焼き魚」は、遠赤外線を使って焼くので、中までじっくり火が通ります。家で焼くとどうしても表面が焦げてしまうような魚でも、焦がさず、旨味を逃がさず焼きあがるそうです。美味しい家庭料理が食べられる、そして何度も通いたくなるお店です。

■編集後記

先日、マスコミで兼松日産農林機の連結ピスの件が取り上げられていました。お客様からも問い合わせがりましたが、当社は兼松ピスを使用していません。このピスは、主に大手ハウスメーカーのツーバイフォー工法・プレハブ工法住宅(数万棟)に使われたようです。ピス自体の不良ではなく、壁倍率強度を改ざん表示していたというものでした。壁の強度(壁倍率)不足となり、ピスを取り替えるという事は、解体し直すのと同じことです。新しい物に対して、見た目が良く、値段も安いとなれば、気持ち揺れ動くとは思いますが、しかし、一生の財産である『家』に関しては、慎重に考えてほしいですね。伝統的な在来軸組み工法で建てた家なら、間違いがないでしょう。工法+技術+誠意が明るく暖かく、気持ちの良い家になるのです。